

県内経済動向調査結果（平成22年4月分）

平成22年 6月10日

産業政策課

概況

県内経済は、製造業で持ち直しの動きが見られるものの、総じて厳しい状況が続いている。

主な業種	状 況
製 造 業	<p>持ち直しの動きが続いている</p> <p>生産額、受注額はそれぞれ前年同月比39.7%増、同44.7%増となった。3カ月先の業況見通しDIは▲3.6から5.9となった。</p>
建 設 業	<p>弱めの動きとなっており先行きの見通しは不透明</p> <p>受注額、完工高はそれぞれ前年同月比4.7%増、同0.6%減となった。3カ月先の業況見通しDIは▲31.3から▲25.0となった。</p>
小 売 業	<p>引き続き弱い動きとなっている</p> <p>売上高は前年同月比3.9%減、3カ月先の業況見通しDIは▲41.4から▲44.8となった。</p>
サービス業	<p>運輸業で回復の動きが見られる</p> <p>売上高は前年同月比2.3%増、3カ月先の業況見通しDIは3.7から▲6.3となった。</p>

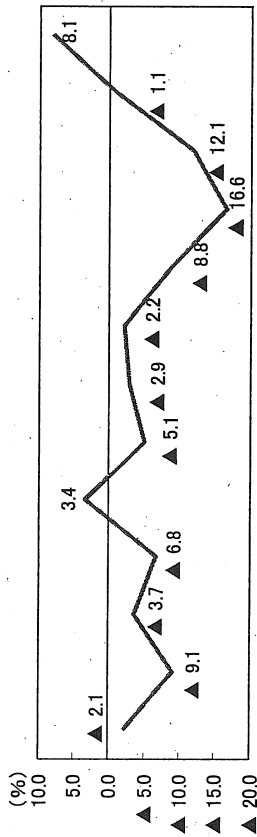
製造業の動向

1 食料品

弱含みとなっている

生産額は前年同月比8.1%増と8カ月ぶりに増加に転じた。3カ月前の業況見通しD Iは▲35.7から▲33.3となった。酒類では、消費者の低価格志向により高額商品の売れ行きは鈍いが、天候の影響が功を奏し生産額は増加している。調味料関連や加工食品でギフト商品の前倒し発注やスポット受注により生産額が増加している企業も見られ、全体としては8カ月ぶりにプラスに転じた。

食料品生産額前年同月比



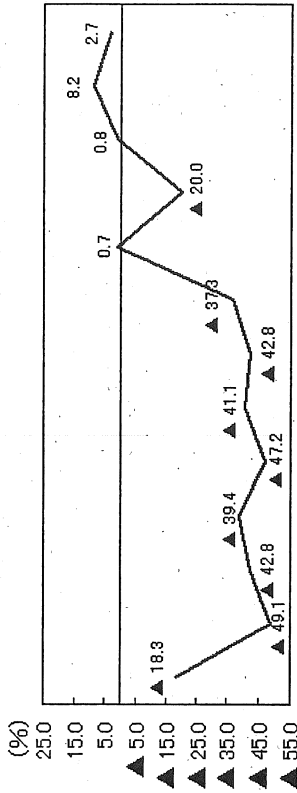
21年 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月
22年

2 繊維・衣服

弱めの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比2.7%増、同1.0%増。3カ月前の業況見通しD Iは▲16.7から16.7となった。学校用スポーツウェアの生産が好調であることなどにより、全体としては、前年を上回る生産額となっている。しかし、景気低迷による消費の冷え込みや天候不順の影響により生産額が減少している企業も見受けられ、弱めの動きとなっている。

繊維・衣服生産額前年同月比



21年 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月
22年

3 木材・木製品

やや持ち直しの動き

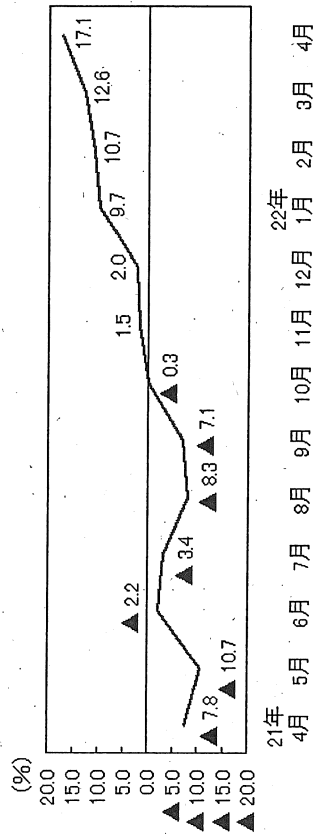
生産額、受注額はそれぞれ前年同月比17.1%増、同11.9%増。3カ月前の業況見通しDIは15.4から25.0となった。合板では、生産額が前年同月比でプラスとなっているが、原材料高に伴い採算ベースを下回る企業も見られる。全国の新設住宅着工戸数が1年5カ月ぶりに前年を上回ったものの、県内では11カ月連続で前年を下回っており、住宅市況の落ち込みが懸念される。

4 鉄鋼・金属製品

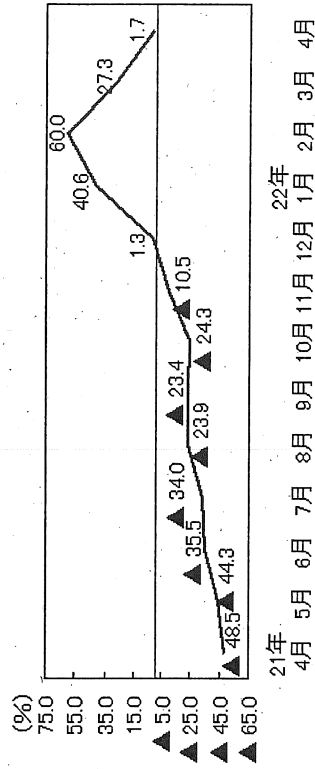
弱めの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比1.7%増、同16.5%増。3カ月前の業況見通しDIは18.2と横ばいであった。コンピュータ関連部品が好調に推移しているほか、自動車関連部品が好調となっている。一方、産業設備関連や公共建造物では受注件数の減少などから、前年同月比でマイナスの状況となっている。

木材・木製品生産額前年同月比



鉄鋼・金属生産額前年同月比

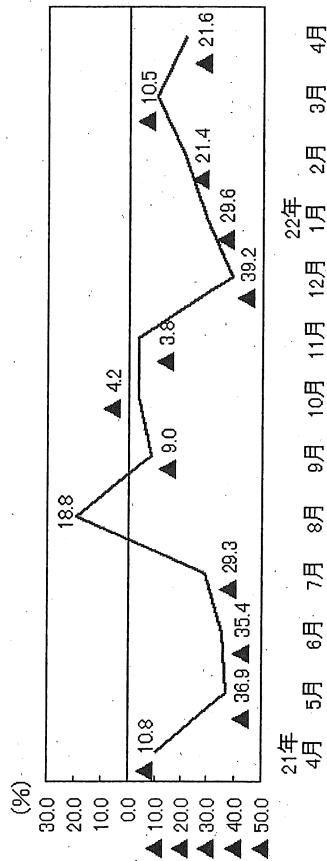


5 一般機械

弱めの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比21.6%減、同17.8%減。3カ月前の業況見通しD Iは0.0と横ばいであった。産業機械関連で一部持ち直しの動きが見られるものの、総じて見れば、生産額は8か月連続で前年同月比を下回っており、休業日を設ける企業も見受けられるなど、弱めの動きとなっている。

一般機械生産額前年同月比

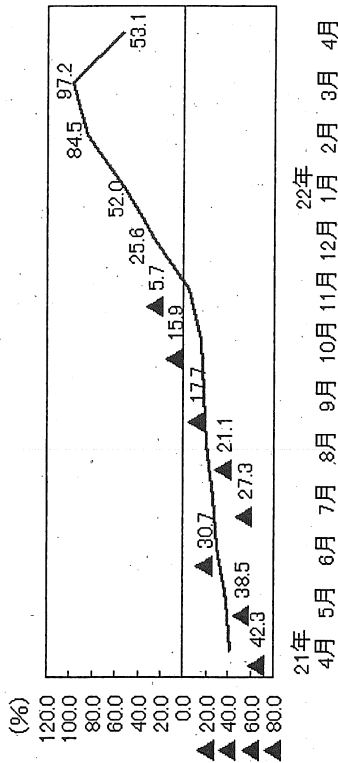


6 電気機械

持ち直しの動きが続く

生産額、受注額は、それぞれ前年同月比53.1%増、同53.5%増。3カ月前の業況見通しD Iは5.3から31.6となった。前年の生産額の落ち込みが大きかったために、前年同月比では大きくプラスとなっているものの、一昨年と比較すると11.5%減となっており、以前の水準までの回復には至っていない企業が多い。コンデンサーや半導体関連で回復基調が続いているほか、電子部品関連でさらなる雇用増により増産に対応する企業も見られる。

電気機械生産額前年同月比

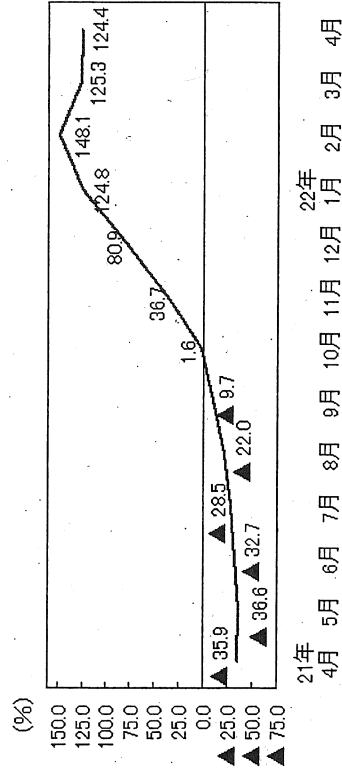


7 輸送機械

回復基調が続く

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比124.4%増、同134.6%増。3カ月前の業況見通しD Iは33.3から▲16.7となった。前年の落ち込みが大きかったこともあり、調査対象企業の全てで前年同月比増となっているが、7カ月連続でプラスとなっており、総じて好調に推移している。一昨年を上回る生産額となった企業も見られる。

輸送機械生産額前年同月比

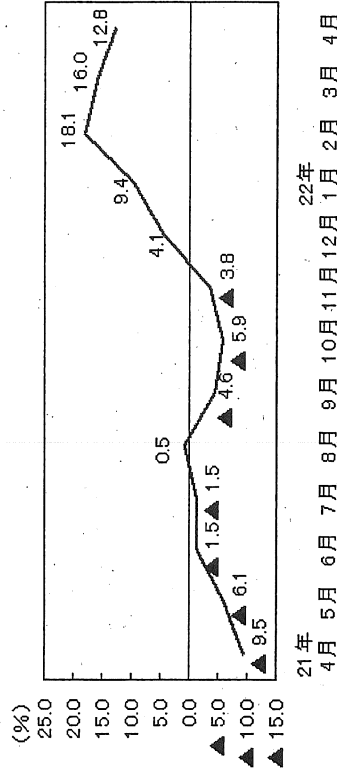


8 精密機械

やや持ち直しの動き

生産額、受注額はそれぞれ前年同月比12.8%増、同17.9%増。3カ月前の業況見通しD Iは12.5から▲12.5となった。光ファイバー関連部品やデジタルカメラ関連部品など総じて生産額が増加している。また、計量器関連では、業務用はかりの受注が好調に推移しており、生産額が上回っている。医療機器関連でも受注は増加傾向であり、生産ライン増設の動きも見られる。

精密機械生産額前年同月比

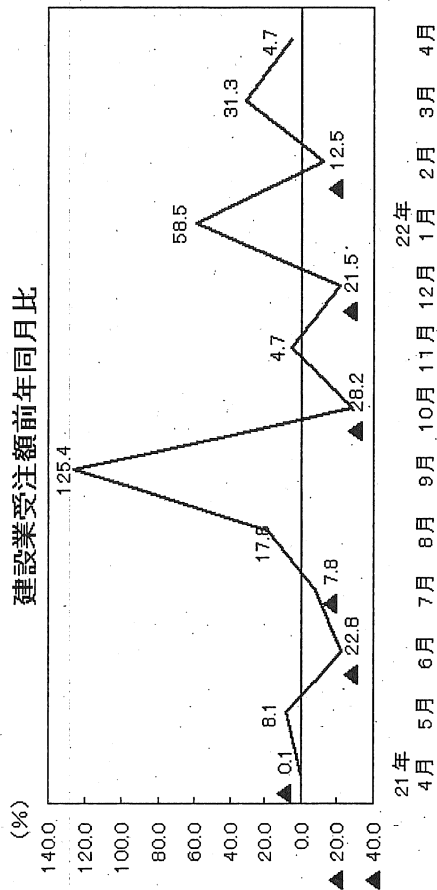


建設業の動向

建設業

弱めの動きとなっており先行きの見通しは不透明

受注額、完工高はそれぞれ前年同月比4.7%増、同0.6%減。3カ月先の業況見通しD Iは▲31.3から▲25.0となった。前年の受注額を上回っているものの、公共工事の減少に対する懸念から、先行きの見通しは依然不透明である。

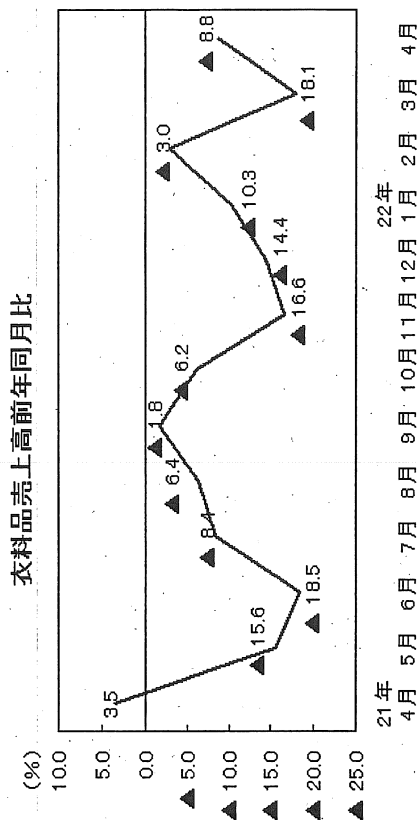


小売業の動向

1 衣料品

低調な売上となっている

売上高は前年同月比8.8%減。3カ月先の業況見通しD Iは▲33.3から▲66.7となった。依然として買い控えによる売上額の減少が見られ、全体では依然として前年を下回っているなど、総じて厳しい状況が続いている。

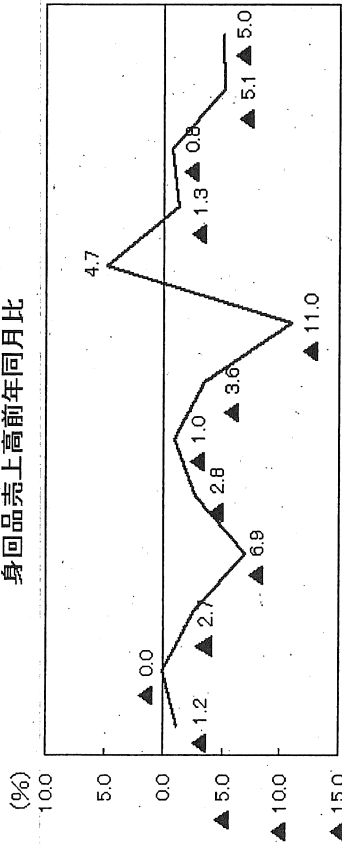


2 身回品

弱含みとなっている

売上高は前年同月比5.0%減。3カ月先の業況見通しD Iは▲33.3から▲42.9となった。
ホームセンターでは、天候不順の影響から、園芸用品の売上げが落ち込んでおり、化粧品も同様に寒さの影響から売れ行きが伸び悩むなど、総じて見ると弱含みとなっている。

身回品売上高前年同月比



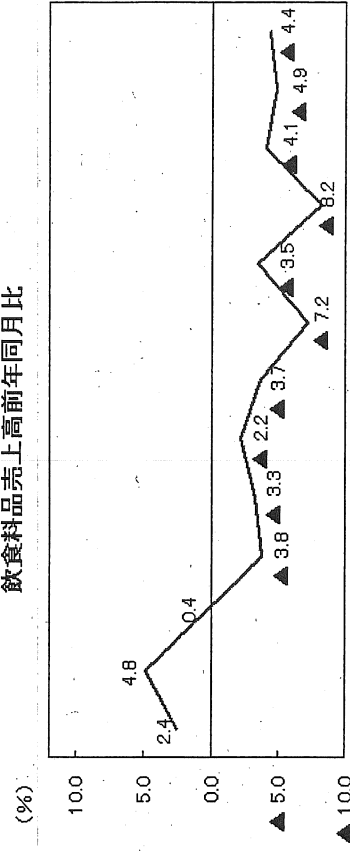
21年 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月
22年

3 飲食料品

弱めの動きとなっている

売上高は前年同月比4.4%減。3カ月先の業況見通しD Iは▲53.8と横ばいであった。
不況に伴う消費意欲の低下や低価格商品への移行が見られ、売上は依然低下している。
コンビニにおいては、客数、客単価の前年割れが続いている。

飲食料品売上高前年同月比



21年 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 4月
22年

サービス業の動向

4 家電品

エコポイント制度が全体を押し上げ

売上高は前年同月比5.1%増。3カ月先の業況見通しD Iは▲25.0から33.3となった。

先月のエコポイント制度変更に伴う駆け込み需要はなくなったが、引き続き売上げは前年を上回った。

1 旅館・ホテル

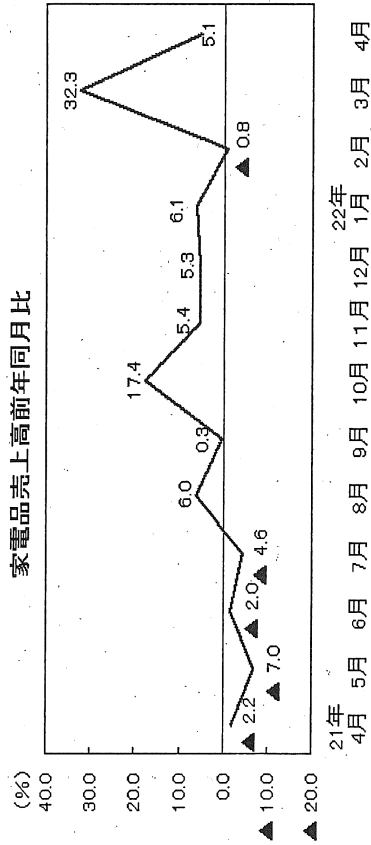
弱めの動きとなっている

売上高は前年同月比4.4%減。3カ月先の業況見通しD Iは6.7と横ばいであった。

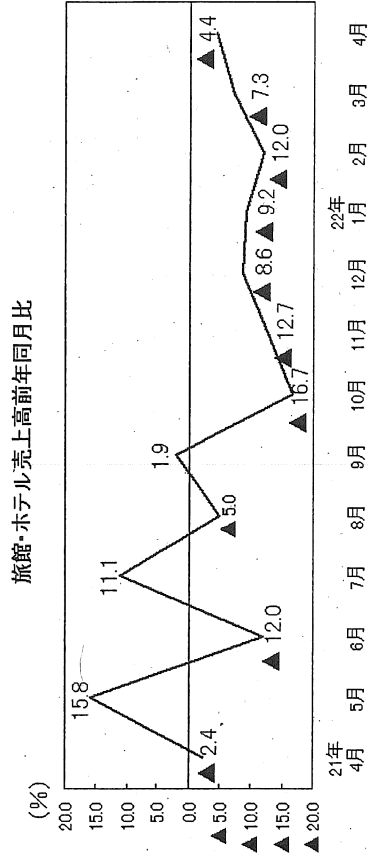
宴会部門で売上げを伸ばした企業も見受けられるものの、宿泊部門では天候不順により予約時期がずれ込むなど、売上げが落ち込んでいる。

全体としては、依然として前年を下回っており、弱めの動きとなっている。

家電品売上高前年同月比



旅館・ホテル売上高前年同月比



2 その他サービス

運輸業で回復の動き

売上高は前年同月比6.1%増。3カ月先の業況見通しD Iは0.0から7.7
となった。

運輸業で、自動車関連部品の生産が増加していることの影響などにより、貨物輸送が引き続き好調となっている。

その他サービス売上高前年同月比

